

2026（令和8）年度 一般選抜（後期日程）の出題方針

科目	出題方針
英語	① 語彙問題（記述式） 基本的な語彙や語句について、意味の理解と知識を問います。 ② 文法・語法問題（選択式） 文法・語法の理解を問う問題です。一般的な文法問題に加え、前置詞や副詞、接続詞など基本的な語句の運用能力を測ります。 ③ 対話文問題（選択式） 会話文の応答として最も適切なものを選ぶ問題です。場面や状況を正確に把握し、会話を論理的に成立させるための応答を判断できるかを測ります。 ④、⑤ 長文読解（記述式） 各国の時事問題をテーマとして、英語で書かれた新聞記事やインターネットの記事を読み、内容の理解度を問います。文章の趣旨や英文の意味に加え、具体的な説明部分や指示語の内容について記述する設問もあり、総合的な英語力を測ります。
数学	<u>数学の中心は「関数」、とりわけ「1次関数（グラフは直線）」と「2次関数（グラフは放物線）」です。その認識のもと、そのような関数の理解と活用の基礎となる「式の展開」とその逆オペレーションである「因数分解」という、関数の式を自在に変形できる知識と能力が備わっていることを確認することが、数学の入試問題作成の際の大きな柱（意図）となっています。</u> 加えて<u>社会科学系の学部（経済学部）として、入学後に社会データを扱える基本的な予備知識（データから、標本の平均や分散あるいは共分散を求める、という操作についての基本的な知識）が体得されているならば望ましく、なのでそのような知識の有無を知る意図の問題を出題しています。</u> 出題にあたって小手先の「受験テクニック」ではなく「純粋に数学が面白い（楽しい）」と感じながら自然に勉強して来た」という受験生が一定の得点を得ることができるよう配慮を重ねています。
国語	国語の問題は、大学での学修に不可欠な読解力・論理的思考力を測定することを目的とします。文章の論理構造を把握し、指示語・接続表現の働きを理解する力、内容を正確に整理し要旨を抽出する力を中心に評価します。 また、文脈に応じた語句の意味や段落の役割の理解度を通して、文章全体を構造的に読む力を問います。設問は、基本的な理解を確認する問題から、抽象的な主張を捉える問題までの段階的な構成とします。